

1. はこぶね認定こども園の教育方針

教育目標は 1976年に粕屋町に唯一の私立幼稚園として建てられた建学の精神に基づき、下記の教育目標を掲げます。
◎キリスト教精神に基づいた幼児教育・保育 礼拝と祈りの中で、神に愛されている大切な神の子であることが教えられ、それゆえに他者を愛する心、他者に感謝する心、他者を思いやる心などが教えられます。このように心の教育を大切にします。
◎学ぼうとする意欲を深める 子どもは「遊び」を通して多くの「学び」をなし、創造性、協調性などが養われる、と思われます。それに少しの動機づけないし道筋をつけることにより、自ら進んで楽しさを見出し、自ら学ぶ意欲が深まります。絵本の読み聞かせ、数遊び、歌や楽器の演奏、その他の手段を用いて、更に学ぼうとする意欲を深めます。
◎健康な体を育むために体を動かす。 比較的広い園庭(ビジョン棟新築に伴い、園庭が整備されました)で、精一杯遊び、走り、夏は豊かな井戸水でプール遊びを楽しむなど、基礎体力の向上を目指します。 更に、教師の研修・研鑽により、子どもの意欲を引き出し、プログラムのもとに全員が一つの課題ないし目標の達成を目指し、達成した喜びや、感動を共有します。そのために「毎日少しずつ」の練習をします。

2. 評価項目の取り組みと評価

項目は6つに分かれています。自己評価の評価ポイントは各項目及び設問＜良い：3・普通：2・不十分：1＞の平均ポイントです。評価は最高3点～最低1点で記載しています。
学校関係者評価のポイントは各項目の取組と自己評価の＜良い：3・普通：2・不十分：1＞の評価です。評価点は評価委員の平均点です。最高3点～最低1点で記載しています。

項目	年度目標へ取り組みとコメント	自己評価	学校関係者	評価とコメント
①保育の計画性 教育目標を改めて見直し、子ども達に合った保育内容を計画している。各学年・年齢に応じた計画を立て、全員で共有し共通理解を深めていく。	各学年、保育雑誌や研修で学んだことも新たにカリキュラムに取り入れ、子どもたちにとって何が必要かを考えていた。振り返りや職員会議で報告し合い、改善点は次に生かすようにした。	2.8	2.9	・教育目標に基づいて各学年別に年間目標を設定し、その中で個々の段階的な課題に取り組むように計画を立てています。近年の少子化・核家族化などの影響で基本的生活習慣、語彙力、理解力などにも変化が見られるため、より一人ひとりに合わせた対応が必要になっています。基礎・基本を大切に取り組んで行くようにされています。
②保育の在り方・子どもへの対応 子ども達一人一人に合った声掛けをし、個別のの対応を心掛けている。子ども達の気持ちに寄り添い、職員が1対1で声をかけながら、子ども達が安全に過ごせるように関わっている。	子ども達の成長過程に応じて、一人一人に合った声掛けや対応を職員で行ってきた。活動においては、グループに分けて内容を検討し、子ども達のやる気や達成感を大切にしてきた。	2.7	2.8	・個性や意欲を大切にしながらも、集団生活のルールを覚える、協調性や社会性も身につけていけるように接することを大切にしています。 ・最終的には自ら進んで意欲的に取り組むことができるように導いています。また、要支援や療育が必要な場合、専門機関との連携をとって無理なく進めるようにされています。
③保育者としての能力や良識 職員間でコミュニケーションをしっかりととり、気持ちの良い挨拶をする。報告・連絡・相談を徹底し、保護者にも丁寧に対応する。園身だしなみを整え、丁寧な言葉遣いを心掛ける。	学年・職員会議を行い、みんなが同じ方向を向いて保育できるように共通理解を深めていた。園内研修・職員会議を通して、保育の在り方・子ども達との関り方を学び、保育者としてのスキルを高めていた。	2.7	2.9	・園の教育方針を理解し園児の成長と保護者の期待に添えるように職員の意識・価値観を高めて共有できるように研修を行っています。 ・過去の考え方や方法にとらわれず、進め方を見直してより良い取り組みになるようにスキルアップされています。
④保護者への対応 保護者の方に日頃の園での様子を伝え、家庭と園が連携し、信頼関係を築いていく。保育参観や園の行事を通して、子ども達の成長を見てもらう。	保護者の方に安心していただけるよう、丁寧な関わり・挨拶を心掛けていた。子ども達同士のトラブルや怪我にも分かりやすく伝え、報告・連絡・相談を徹底した。	2.8	2.8	・保護者対応について社会人としての一般常識を学び、相手に失礼が無いように注意しています。対面での応対、電話応対、言葉づかい、身だしなみなど園職員としての自覚と責任を忘れずに取り組まれています。 ・園生活で気づいた点を保護者と共有し年齢に応じた成長のため園生活だけでなく家庭生活でも取り組んでいただけるような提案が必要だと感じます。
⑤地域の自然や社会との関わり 地域とのつながりを大切にし、花の日訪問では感謝の気持ちを伝えるようにする。実習生を受け入れ、当園のことを知ってもらいながら、互いに学ぶ気持ちを大切にしている。	地域の方との繋がりを大切にし、感謝の気持ちを持つ大切さを子ども達にも伝えた。業者の方・見学の方にも積極的に挨拶をし、社会との繋がりを大切に継続していく。	2.8	2.9	・様々な行事や地域との交流を通して自然の力、生命の大切さを学ぶ機会を設けています。 ・日頃から登降園時の挨拶を行い、園外から訪問される方にも気持ちの良い挨拶ができるようにされています。 ・入園前の親子向けにHappyクラブ（親子参加型体験教室）を実施して子育て中の保護者の交流の場を設けられています。
⑥研修と研究 園内研修や、外部の研修に積極的に参加し質の向上・スキルアップへと繋げていく。子どもの育ちに大切なものを、職員間で共有し学びを深める。	職員会議で情報を共有し、共通理解を深めていた。研修で学んだことを、保育で生かし取り入れていくよう務めた。これからも、学ぶ気持ちを大切にし、質の高い保育を目指していく。	2.9	2.9	・年に2回は社会人として、また、園職員としての考え方や、振る舞い等も研修を実施し、改善向上されています。 ・毎月の保育研修にて、学年全体の進捗状況の確認、改善点などの抽出をもとに次の取り組みのポイントなどを共有されています。 ・運動会の運営・内容・進行などを見直し、より短時間で行う工夫をされました。

3. 自己評価を通して翌年度へ向けて課題と取り組み

・研究発表を通して、今までのカリキュラムを改めて見直し、一人一人の子ども達に合った保育計画を考えた。近年、発達個人差が見られている中、子ども一人一人が安心して自分らしく過ごせる環境を作ることが大切である。先生主体の保育ではなく、子ども主体の保育で、育ちの過程、自分で考える経験を大事にした保育へ移行していくことを目指している。こども園になって12年を迎え、これまでの実践を振り返りながら、「保育とは何か」「子どもにとって大切な育ちとは何か」を改めて見直し、子ども主体の在り方について学びを深めていきたいと思います。また、職員同士、挨拶やコミュニケーションを密にし、報告・連絡・相談を徹底していく。園内研修や他の園にも積極的に視察に行き、保育の質・自分のスキルアップへと繋げていくことを続けていきたい。

4. 近隣とのトラブルや苦情について

令和7年度は特にありませんでした。

5. その他

なし